

平成30年度 第1回  
京都府独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会  
近畿職業能力開発大学校京都校部会 開催概要

1. 開催日時

平成30年6月21日（木） 10:30~12:00

2. 開催場所

京都職業能力開発短期大学校2号館2階会議室 舞鶴市上安1922番地

3. 主な議題

- (1) 平成29年度の業務実施状況について
- (2) 平成30年度の業務計画及び業務進捗状況について

4. 議事経過

資料に沿って、事務局から説明が行われた後、意見交換が行われました。各委員からの主な意見は以下のとおりです。

○地元の高校と情報交換していると、生徒の中で地元志向の高まりや、休日出勤等の観点から第3次産業よりも製造業へ人気が移行していると感じられる。

○専門課程で2年間学び、さらにその後応用課程で2年間学ぶという道があるように、中学校の段階から、峰山高校の次に京都短大があるという一連の流れを作って募集はできないか。

○社会や学生のニーズを掴み、それに応えられる提案をわかりやすい言葉で、ということが重要であり、それを実践している今の取り組みを続け、高校訪問件数を重ねていけばいずれ結果に結びつくのではないか。

○都会には「情報通信サービス科」に近い学習内容の専門学校等も多くあるが、京都短大の情報通信サービス科はより実践的な知識・技術が身に付く日本唯一の科であることをアピールし、都会に負けずに入校者を増やしてほしい。

○定員充足率が下がっていく中で入校生を確保していくには、就職担当の先生だけでなく、直接担任の先生にも魅力を伝えていくことが有効なのではないか。

○製造業の求人倍率が非常に高く、また高校生の意識が進学に向いている現状で、ものづくりや就職することの大切さを広く先生や生徒に広報してほしい。

○舞鶴市が行う高校訪問も今年で3年目となり、高校の先生方との信頼関係が構築できてきたところである。引き続き、京都短大のPRを行っていく。また、今年度新たな取り組みとして、京都短大にも参加していただくが、進路選択のために地元企業から高校生に対しプレゼンテーションを行う企業研究会を開催する予定である。

○就職先やその後の人生等、短大修了後の出口を大事にし、数字に一喜一憂することなく引き続き結果の分析を行いながら、現在の取組を地道に続けてほしい。また、商工会議所の会報誌について、在校生に関する記事等も検討しながら、引き続き京都短大の掲載をしていきたい。

○Uターン、Iターン就職を促しても、都会志向が強くなかなか実を結ばない。京都北部地域の少子化、過疎化の悪循環を作らないためにも、地域における就業人口増加の受け皿を作ってほしい。



近畿職業能力開発大学校京都校部会出席委員名簿

(敬称略)

氏 名	所 属 及 び 役 職 名
高 橋 裕 行 《座 長》	京都府立福知山高等技術専門校 校長
長 柄 俊 治 (欠 席)	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 議長
田 淵 末 浩 (長柄委員代理)	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 事務局長
瀬 川 甫	舞鶴商工会議所 専務理事
山 口 靖 弘 (欠 席)	京都府中小企業団体中央会 事務局長兼北部事務所長
寺 田 昭 夫	丹後機械工業協同組合 常務理事
足 立 由 紀 夫	一般社団法人綾部工業研修所 代表理事 日東精工株式会社 常務取締役
田 中 政 旭	舞鶴工業集積協議会 会長
小 瀬 康 行	京都府商工労働観光部人づくり推進課 課長
八 田 美 映 子	舞鶴公共職業安定所 所長
瀬 川 治 (欠 席)	舞鶴市産業振興部 部長
奥 本 護 (瀬川委員代理)	舞鶴市産業振興部企業立地・雇用促進課 雇用促進係長